令和元年度第１回大和市総合教育会議議事録

１　日　時　　令和元年５月２７日（月）　１５時００分～１６時００分
２　場　所　　大和市役所　５階　研修室
３　出席者　　市長　教育委員会（柿本教育長、青蔭教育長職務代理者、小松委員、前田委員、森園委員）
　　市職員（政策部長他１０名）
４　傍聴人　　１名
５　議　題　　（１）令和元年度の教育大綱関連事業について
６　資　料　　・次第
　　・【資料１】教育大綱関連事業一覧
　　・【資料２】令和元年度の教育大綱関連事業について
　　・【資料３】教育大綱

【会議要旨】

１　開会

２　市長挨拶

３　議題
（１）令和元年度の教育大綱関連事業について
事務局及び所管部：（資料１～資料２について説明）

教育長　：教育に関する事業や、教育大綱に関連する事業が数多くある中、今年度も新たな取り組み、充実する取り組みなどにおいて、目的達成に向け各事業を進めていく。また、本年４月から新たな学校教育基本計画に沿って取り組みを進めているが、その基本理念は「未来を切り拓いて生きていく力を育む学校教育」とした。それぞれの事業の目的を明確にしながら、大和市の教育が一層充実していくよう、市長部局との連携を密にして、取り組みを推進していきたいと考えている。

教育委員：施策「子どもの健やかな成長に向けた切れ目ない支援を推進します」の病児保育事業に関して意見と質問をさせていただく。病児保育は、いつもは保育園、幼稚園に通っている子どもが、急な発熱などで預かってもらえず、保護者がどうしても仕事が休めない時に子どもを受け入れる施設で、いつ発熱するかも知れない子どもを抱えて仕事をしている親にとってはとても大切な施設である。病児保育を行っている施設は、これまで、市立病院の敷地内にある「ぽかぽか」、

大和駅近くの「もみの木医院」の病児保育室であったが、今年度から中央林間地区に「十六山」の病児保育室が加わった。大和市は南北に長いので、市全体を網羅できるよう、今後も病児保育を行う施設が増えて欲しいと思う。病児保育施設を知らずに悩んでいる保護者もいると思うので、今後も周知を続けていただきたい。
病児保育を行っている事業者に補助金を交付しているが、どのような基準を満たす事業者に交付しているのか。また、各施設はどのくらい市民に利用されているのか。

所管部　：病児保育は、国が定めている補助金の交付要綱に則りながら、市の事業として実施している。本市による補助金の交付は、国が定める交付要綱に沿って、保育士と看護師の配置人数のほか、隔離機能を持つ観察室を有するなど施設の設備基準等を満たし、児童福祉法に基づく届出をした事業者に行っている。
平成３０年度の利用実績は「大和市病児保育室ぽかぽか」３７８人、「もみの木医院病児保育室」８５７人となっている。

教育委員：施策「健康に関する教育を推進します」の母子保健相談指導事業に関して意見と質問をさせていただく。大和市では出産前、出産後の両親に向けて様々なサポートを行っており、大変素晴らしいことだと思う。このような充実した種類の講座や子育て相談を通じて、大和市で安心して子育てをしてほしいと思う。
最近では、残念ながらお母さんの中に「自分の子どもさえよければ」といった方が増えていると感じている。このような講座や相談を通じて、子どもが成長する過程で親として子どもとどうやって関わっていったら良いかを学ぶこともできると思う。講座や相談などにおいて、親が子どもと社会に対して求められている役割を伝えていっていただきたい。
他の自治体では、特にお母さんにどのようなサポートがされているのか。

所管部　：お母さんへのサポートとなるものとして、保健師・助産師等の専門職等が訪問を行い、相談に応じる乳児家庭全戸訪問事業のほか、産後の家事援助や母親の休養時の子どもの預かり、保育園等への送迎を行うファミリーサポート事業などがあり、基礎自治体はそれぞれ、地域や妊娠・出産・子育て期の状況に応じたサポートを展開している。
本市は今述べた事業を含め、幅広く取り組みを展開していると認識しているが、他の自治体の事例を申し上げると、産後うつの心配や近隣に支援者がいないといったことなどを背景に、出産直後から生後４か月児頃までを対象とし、母親の休養、授乳や心理的なサポート、乳児の育児ケア等を日帰り型や宿泊型で行う産後ケア事業を実施している自治体もあると承知している。

教育委員：施策「あらゆる世代の知性を高め人生を豊かにする読書活動を促進します」の小・中学校図書館教育推進事業に関して意見を述べさせていただく。大和市の学校では、学校図書館を利用した取り組みがとても素晴らしいと思う。特に、調べる学習は、子どもたちが自分で調べて、自分で考えることの大切さを感じるきっかけになると思う。今後も調べる学習を続けてもらいたいと切に思っている。

子どもたちが家庭で家族と一緒に読書をする「家読（うちどく）」は、本が好きになる大きなきっかけになると思う。家族が揃って本を読んで、親が子どものしたことを的確に褒めるような家庭であるならば、きっとその子どもは本が好きになると思う。毎月２３日の「やまと家読の日」に、例えば歴史のような統一したテーマを設けた「家読」をやってみたらどうかと思っている。家族でも学校でも色々な本を読んで、子どもたちの間で楽しく本の話ができるのではないかと思う。

大和市の学校では、全ての学校図書館に司書がいる。このことは子どもたちにとって、とても大事なことだと思う。司書の方々が持つ「本を好きにさせる力」は凄いもので、子どもたちの身近に司書の方々が居ることは、本に興味がない子どもを、本が好きな子どもにする最も近道になる。それぞれの学校司書の方々が相互に交流し、情報交換ができる機会を設けているが、より一層、学校司書の方々が協力して、大和市の全ての子どもを本好きにしていただきたいと思う。

教育委員：施策「子どもの健やかな成長に向けた切れ目のない支援を推進します」の民間保育所建設・増設支援事業に関して意見と質問をさせていただく。市は保育所を積極的に整備することに加え、子育て支援施設「きらきらぼし」では、幼稚園児等を預かる送迎ステーション事業を実施するなど、保護者が安心して働けるよう支援している。その結果、待機児童数が４年連続ゼロとなったことは、大変評価できることだと思う。この実績からも、大和市の保護者の皆さんは、子どもが保育所に入れるかどうかを心配せずに、働くことができると思う。今後も引き続き、保育環境の一層の充実を図ってほしいと思う。

「きらきらぼし」での送迎ステーション事業を始めて１年が経過した。旧大和市青少年センター跡地に整備する予定の公私連携型保育所でも送迎ステーション事業を実施するとのことだが、「きらきらぼし」での送迎ステーション事業はどれくらいの利用者がいるのか。利用者からはこれまでどのような意見が出ているか。

また、先日、大津市で保育園でのお散歩中に信号待ちをしていた子どもたちを襲った大変痛ましい交通事故があった。保育所が増設される中、大和市でも園庭がない施設が増えていると思う。お散歩中の安全確保をはじめ、民間保育所等における保育中の安全対策、そして指導などはどのように行っているか。

所管部　：「きらきらぼし」に関しては、平成３１年４月１日時点で、５園の幼稚園から合わせて２５人の児童が利用している。利用者からの声としては、「送迎ステーションが無かったら幼稚園に通うことを諦めていた」、「幼稚園が休園でも仕事があるので、預かりができるところを探していた」、「送迎ステーションの事業が中央林間以外にもいくつかできれば良いと思う」などの意見をいただいている。民間保育所等に対する保育中の安全確保についての指導だが、特に屋外での活動にあたっては、散歩の経路や公園等における異常箇所・危険性の有無だけではなく、子どもの動きに応じた保育士の対応を含め、安全対策に係る注意喚起等を民間保育所等に対し定期的に発信するとともに、施設に出向いて実施する指導監査の際にも保育中の安全確保についての確認を行っている。

教育委員：施策「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」の放課後児童クラブ施設整備事業に関して、意見と質問をさせていただく。
先ほどの保育所と同じく、小学校に通う子どもを持ち、働いている保護者にとって、放課後児童クラブは子どもたちの安心、安全を確保するうえでも、とても重要な場所だと思う。市では、一昨年度に林間小学校、昨年度は緑野小学校において計画的に整備をしてきている。以前に中央林間小学校の児童クラブを訪れたことがある。そのときは、とても賑わっている一方で、限られたスペースの中に多くの児童がいるとの印象を受けた。今年度は、その中央林間小学校の児童クラブの整備に着手するとのことで、非常に嬉しく思っている。
また、一部の児童クラブでは、雨などで外に出られない日は大変混み合っていることもあるようだ。今後も一つひとつ着実に整備をしてもらいたい。
今後、児童クラブ施設の整備についてはどのように進めていくのか。

所管部　：児童クラブの整備については、児童数の増加傾向が顕著である小学校区の整備を重点的に取り組んでいくことを基本に考えている。今後も教育委員会等と調整を図りながら、小学校敷地内への整備を基本としつつ、地域の状況に合った受け入れ方法について検討し、入会を希望する全ての児童の受け入れが可能となるよう努めていく。

教育委員：施策「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」の特別支援教育推進事業に関して意見を述べさせていただく。支援が必要な子どもは、特性やニーズが一人ひとり違う。その中には医療的ケアが必要な子どももいる。大和市では、そのような子どもが在籍する学校に看護師を派遣している。このような取り組みを続けることは、簡単なことではないと思うが、医療的ケアが必要な子どもたちにとっては、安心して学校生活を送れ、活動の幅も広がるという点なども含め、とても大切なことであると認識している。本市でこの取り組みが実現していることは実に素晴らしいことだと思っている。
今年度、特別支援教育センター「アンダンテ」が開所した。全国的に特別な支

援を必要としている児童生徒が増えていく中、大和市においても既に多くの相談があり、見学に来る方も多いと聞いている。通級指導教室の「はぐくみの教室」、教育支援教室の「ひだまりの教室」、そして相談センターがしっかりと機能し、適度にゆっくりという意味の「アンダンテ」の愛称のとおり、子どもたち一人ひとりがそれぞれのペースで成長することに繋がればいいと思う。
また、「アンダンテ」では、特別支援教育について、教員一人ひとりのスキルアップに繋がる専門的な研修を実施していく。支援が必要な子どもが増える中、必要とされる支援も多様化している。それぞれの子どもが学校に元気に通えるよう、これまでより更に充実した支援体制で教員がきめ細やかに関わっていくことができるようになると思う。
教員一人ひとりのスキルアップを図り、スクールアシスタントなどの専門職を活用しながら、「アンダンテ」を中心とした組織全体で、子どもたちへの支援を更に充実していきたいと考えている。

教育委員：施策「夢や目標に向かってたくましく生きる子どもを育てます」の学力向上対策推進事業に関して意見を述べさせていただく。先月、文部科学省から、小学校高学年においても、特定の教科を専門の教員が複数の学級で教える「教科担任制」を進める考えが示された。これは、現在問題になっている教員の過度な負担を改善するだけでなく、新しい時代に対応するため義務教育の在り方を見直すものでもある。
来年度から小学校では学習指導要領が新しくなることにより、今までには無かった教科が加わる。小学校の教員には、新たな学習の指導が求められるだけでなく、時代の変化に先駆けて、将来を見据えた指導力の向上に努めるよう求められている。教員の指導力の向上は、子どもたちの学力の向上に必ず繋がる。今後はより発展的に教員の指導力の向上を図っていきたいと思う。
小学校で行っている「夏休み寺子屋」は実施して５年目になった。「放課後寺子屋やまと」、「夏休み寺子屋」は、しっかりと定着し、多くの子どもたちが参加している。今では各学校間、先生間でも連携が取れるようになり、互いに協力し合って進めることができるようになった。そして何より、多くのボランティアの方々のご協力があり、とても感謝している。今後も「寺子屋」事業はますます重要なものになる。これからも、事業の充実を図っていきたいと思う。

教育委員：施策「国際社会での活躍の礎となる英語力や国際感覚を育みます」の英語教育推進事業に関して意見を述べさせていただく。来年度からの小学校での英語の教科化に向けて、本市では平成２８年度から３年間の英語教育推進事業により、先進的な取り組みを行ってきた。主な取り組みとしては、資格を持つ英語アドバイザーを各学校に派遣し、教員へのアドバイスを徹底したことである。その結果、大和市の教員には十分に外国語授業を展開できる力が身についたとアドバイザーからの報告があった。

また、３年間を通して、年間計画と指導案を繰り返し練り直して、作成してきたことで、教員が指導案に基づいて迷うことなく授業ができるようになった。授業外でも、短時間学習として、ＤＶＤ教材を活用することによって、子どもたち全体の英語力の底上げに繋げることができた。この３年間の大きな成果として、教員の指導力が着実に向上し、児童に良い影響が出てきたことがある。教員一人一人が意識を変え、自ら学びながら英語教育に取り組む姿勢が表れてきたことによって、来年度からの英語の授業をスムーズに行うことができると思う。

夏休みに行っているイングリッシュデイは、今年で４年目になる。イングリッシュデイでは、授業で学んだことを生かしたゲームなどを楽しみながら行うことで、英語でコミュニケーションを図る。昨年度は小学５、６年生を対象に実施し、７３名の子どもたちが参加した。イングリッシュデイは子どもたちの英語への苦手意識を無くし、英語に親しむことに繋がっていく。今後も継続して取り組んでいきたいと思う。

これまでの取り組みを今後の授業に生かし、子どもたちが生きた英語を身につけられる教育にしていきたいと思う。

教育委員：施策「時代に即した先進的な情報教育を実施します」の教育用コンピュータ整備事業に関して意見を述べさせていただく。近い将来、キャッシュレス社会への移行が急速に進むとの報道を見た。また、今でも子どもたちは、既にタブレット端末を利用したデジタル教科書を活用する時代になっている。来年度からはプログラミング教育が小学校で必修になるなど、新しい時代を生きていく子どもたちにとって、これからＩＣＴ教育がますます重要になることは明らかである。

大和市では今年度から、全ての小中学校で「放課後寺子屋プログラミング教室」を開催する。この教室では、子どもたちは楽しみながら、簡単なプログラミングを学ぶことができる。大和市の子どもたちは、いち早くプログラミングに触れることができ、論理的に筋道を立てて考える力、いわゆるプログラミング的思考をより早く身につけることに繋がると思う。

国は、学校のＩＣＴ環境がまだ脆弱なままで、その地域間格差が大きく、危機的状況だと言っている。そのような中、大和市では授業のために電子黒板やタブレット型ＰＣを整備するのみならず、校務用コンピュータを導入して、教員の負担の軽減を図るなど、とても恵まれた環境にあると思う。今年度は、中学校１年生の全クラスに電子黒板機能付きのプロジェクタを整備し、更にＩＣＴ環境の充実を図っていく。

こうした中、コンピュータにトラブルがあった際にすぐに解消することや、常に使える状態に保守しておくことはとても重要なことである。本市のＩＣＴ支援員は、児童生徒にコンピュータを活用した授業支援を行うことなどに加えて、

各学校を回り円滑なＩＣＴ環境を守っており、その役割はこれからますます大きなものになると考えている。今後も、ハード面、ソフト面共に充実したＩＣＴ環境を整備していきたいと思う。

所管部　：学力向上対策推進事業については、教員の指導力の向上、「寺子屋」事業の一層の充実を図り、児童・生徒の学力のさらなる向上に努めていく。英語教育推進事業については、英語の教科化を大きな転換点と捉え、これまでの取り組みを生かし、子どもたちがより生きた英語を身につけられるよう進めていく。教育用コンピュータ整備事業については、子どもたちがプログラミング的思考を身につけられるよう、学校のＩＣＴ環境をしっかり整備していく。

教育委員：施策「創意に満ちた活力ある教育環境を整えます」の北大和小学校増築事業に関して意見を述べさせていただく。北大和小学校の増築は子どもたちにより良い教育環境を確保するための整備であり、必要なものであると考えている。工事期間中、近隣の方々には大変ご迷惑をおかけする。何とぞご理解をいただきたいと思う。大和市としては、事故等の問題がないよう、十二分に配慮して工事を進めていくことが肝要かと思う。
北大和小学校の子どもたちは、工事期間中、校庭が使えなくなる。しかしながら、子どもたちにとって、自分たちの学校がどう完成に導かれるか、工事期間中のことも思い出として胸に刻んで、これからのことを思ってもらいたい。そして同時に子どもたちの学校生活への影響が最小限になるよう努めたいと思う。今後も、子どもたちのために、教育環境の整備を着実に進めていきたいと思う。

教育委員：施策「いじめ・不登校問題の解消に真摯に取り組みます」のいじめ等対策事業に関して意見を述べさせていただく。大和市では、平成２５年度から学級集団アセスメントテストを実施している。アセスメントテストでは、目に見えにくくなっている子どもたちのいじめや不登校の兆候を早期に知ることで、子どもたちの問題解決のために大変有用なものだと考えている。
重要なことは、アセスメントテストの結果をどう活用するかである。このテストで分かったことについて、どう具体的にアプローチするのか、学校で具体的な計画を作っていく必要があると思う。子どもたちから出ている見えないサインに対して、スピード感を持って、サインの見逃しがないよう、適切な対応をしなければならない。難しいことだが、この見えないサインを発見できるよう、更なる努力を続けることが大事である。一方で、アセスメントテストは万能なものではない。あくまでも、教員の一人ひとりの耳と目でみていくのが一番重要である。教員の方にはそのような耳と目を養っていただきたいと思う。
目の届かないところで、いじめの被害にあっている子どもや、不登校になっている子どもたちに光が当たるように、これからも一人ひとりに寄り添っていきたいと思う。

教育委員：施策「市民の豊かな心を育む生涯学習を推進します」の健康都市大学事業に関して、意見と質問をさせていただく。「市民でつくる健康学部」では、市民が受講生として講義を聴いて学ぶだけでなく、自身が持つスキルや知識、経験を礎に講師をしていただいている。講師を務めた方からは、「講義してみてとても楽しかった」とか「講義で話を上手に伝える方法から勉強した」などの声を聞いた。何より私が嬉しく思ったことは「健康都市大学に通うようになってから、そのために自身でかばんと筆箱を買いに行ったよ」と楽しそうに話していた初老の方の笑顔であり、忘れられない。

この事業では、市民同士で学び合い、理想的な市民間交流がされている。定年退職をした方がこれまでと違う生きがいを持つきっかけになり、仲間と共通の話題を持って盛り上がっている。この成功を踏まえて、ますます企画・運営を発展させて、交流の大きな輪を広げていきたいと思う。

講師を務めた方々、受講された方々からどのような感想や要望が届いているか。

所管部　：健康都市大学の「市民でつくる健康学部」では、４月１０日の開講から毎日、市民講師による講座を開催している。4月１０日から5月１０日の３０日間で、合計１，０１３名、１日平均３４名の方の受講があった。市民講師からはこのような場を市が設置したことに対する賛同、感謝の言葉のほか、「人前で話すことへのチャレンジは苦しいけど楽しいと感じている」、「楽しかったと参加者に思ってもらえるように頑張る」などの感想を多くいただいている。また、講師を務めるだけでなく、別の日には受講生として他の分野のことを学ぼうとする方も多くいる。

毎回受講生に行っているアンケートでは、その日の講師やテーマにより様々な感想が寄せられているが、「同じ目線の市民の方のお話は親近感があり、興味深く拝聴した」、「知らないことも多く、大変勉強になっている」などの声があった。また、顔見知りになった受講生同士でお話をされる姿などもお見受けしている。なお、市民講師からは、複数回のシリーズものとして講義したいとの要望を、また、受講生からは、椅子などの増設要望をいただいているので、より良い学びの場の提供に向け、現在、検討を進めているところである。

教育委員：今年度の教育大綱関連事業についても、前年度から更に多くの予算を確保していただき、教育委員会として大変感謝している。元号も平成から令和となり、正に新しい時代の幕明けである。子どもたちが大人になった頃、今とは全く違う社会になっていると思う。新しい学習指導要領では、「社会の変化を見据え、新たな学びへと進化を目指す」としているが、学校教育についても、新しい時代、今と全く違う社会を見据えた内容に変わっている。

教育委員会としては、このような状況を踏まえながら、今行っていることを振

り返り、検証しつつ各事業をしっかり進めることで、大和の子どもたちが成長し、新しい時代、今と全く違う社会の中で活躍できる力を身につけられるようにしていきたいと思う。
毎年度、市長には大きな予算を確保していただいているが、教育というものは一朝一夕で目を見張るような成長を遂げることは難しい面もある。そういった中でも、子どもたちが文化やスポーツ活動で好成績を収めるなど一人ひとりの成長の証を見て取ることができ、それがこれまでの取り組みの実績としての表れではないかと思う。これからも子どもたちの今後のために、尽力をいただきたいと思う。

4　その他

5　閉会